

# 京橋の印刷

12月5日1987・No.69

東京都印刷工業組合京橋支部  
〒104 東京都中央区新富1-16-8  
日本印刷会館3F 電話 552-1855

編集 近藤 正 弥  
田島 弘 司  
柴田 博 司



「東洋らん」

作者故松原友規

## 巻頭言 副支部長 荒川 龍治

十一月七日に東印工組第三十六回永年勤続従業員表彰式が新橋演舞場で挙行されました。

表彰される方々の緊張した面持を拝見し感慨一入のものがありません。永い年月各々の事業所で一途に勤務され、その発展に嘗々と寄与されたことを思う時、その偉大さに感動をおぼえたと共に尊敬と感謝の念を強くいたしました。

思えば今日に至るまで太平洋戦争、戦後の混乱、朝鮮動乱、求人難、オイルショックという幾度かの困難があり、私達は従業員と共にこれを取り越えて来ました。

そして今また私達を取り巻く環境は、脱工業化社会、或は情報化社会等と新しい社会に向かって急激な変革を遂げつつあり、その過渡期にある円高ドル安、輸出不振、財テク、土地問題等厳しいものがあります。

しかし諸先輩が、過去の数々の苦難を克服し、今日の業界発展に努力されたことを考えるとき、今直面する厳しい環境に臆することなく正々堂々と立ち向い、和の精神をもって一致団結しこれに当ることは私達に与えられた試練であり、これを踏み越え、来るべき二十一世紀を迎えることこそ、その使命ではないでしょうか。

幸い、来るべき新社会は情報化社会とも云われ、中心となるべき印刷産業は、その市場が十二兆円余とも云われております。

私達はこの新社会を迎えるにあたり、その時代に活躍し得るべく企業の体質を強化し発展を期すると共に、併せて従業員、そしてその家族の幸福を願わずにはられません。

# 永年勤続従業員表彰式

東印工組京橋支部  
於・中央会館 9月25日

9月25日(金)、改装なった中央会館6階において、東印工組京橋支部の永年勤続従業員表彰式が行われました。大竹副支部長の司会ではじまり、



白橋副支部長が「大変素晴らしい秋空になりました。本日東印工組京橋支部従業員表彰式にあたり、189名にのぼる多くの印刷情報産業の担い手の方々が表彰をお受けになることは、まことにめでたく、心からお祝い申し上げます。只今より式典が始まりますが、祝意を表すために中央区あるいは東印工組本部又各方面の団体の方々に来賓としてご出席頂きましてまことに有難うございます。」と開会の辞をのべ、小山支

部長より次のようなお祝いの挨拶があった。

「皆さん今日は、月末の忙しいさ中に大勢ご出席頂きまして有難うございます。又東印工組富田副理事長さんをはじめご来賓、支部顧問、相談役はじめ先輩の方々のご臨席を頂きまして誠に有難うございます。今回は京橋支部永年勤続者189名の方々の内、約100名の方にご出席頂きました。5年、10年、15年の永い間精励努力をしてこられたことに対して衷心より敬意を表し表彰のお慶びを感謝の念を込めて申し上げる次第です。おめでとうございます。

高度情報化社会の中にありまして、印刷業界



はきびしい環境の中におかれております。しかし印刷業は5兆円産業という立派な産業に成長発展しております。又一昨年の工業統計によりますと、都内の印刷業の売上げが1兆5千億円で、文字通り、都内の産業としては第1位を占めております。

皆さんご承知のとおり昨年印刷産業の行政指導の窓口であります通産省の生活産業局紙業課が紙業印刷業課というように名称が改められました。これは印刷業の社会的地位が高まった事の証拠でございます。このような発展の姿は、長い間宮々として築かれました先輩経営者を始め皆さん方の努力の賜ものであります。心から感謝申し上げます。このように、私共、印刷人として力強く又誇りに思います。受彰者の皆さん方には今後共努力を積み重ね、これから20年、30年、40年、50年勤続の本部表彰の榮譽に浴されますように、尚一層の研鑽をされるよう切望するところであります。本席は同じ印刷を志し、印刷を天職とする者同志が「同根連枝」の連帯の絆を固くする場でもございます。そういった意味で折角の機会でございますので、働く仲間として、又印刷人として一層の



懇親を深めて頂きたいと念願しております。  
 最後に何といつても健康が第一でございます。  
 これから先、皆様がますます健康で、各々の職  
 場におきまして先輩を助け、又良き先輩として

指導的立場でご活躍されますように心から皆様  
 始めご家族ご一同様のご健勝とご多幸を、そし  
 てご企業のご繁栄を祈念申し上げます。お祝  
 いの挨拶といたします。おめでとうございます。



(拍手)と祝意を表し、引つづき司会の大竹副  
 支部長より受賞者代表の指名があり5年勤続者  
 21社76名を代表して、三好印刷(株)金子智敬氏、  
 10年勤続者、21社76名を代表して(株)白橋印刷所  
 赤石沢桂子さん、15年勤続、19社50名を代表し  
 て大東印刷工芸(株)佐藤正夫氏が選ばれ、それぞ  
 れ登壇、賞状が朗読され、拍手のなか表彰され  
 ました。

つづいて本部富田副理事長より、「皆様方の  
 労苦に対して心からの敬意を表しお慶び申し上  
 げます。石の上にも三年、十年ひと昔などと申  
 しますが、そうした長い年月でも過ぎてしまえ  
 ば思い出の一コマに過ぎません。永い年月一つ  
 の企業に勤続するという事は、大変努力を要す  
 る事でございます。

皆様方がそれぞれの企業に入社されて、  
 今日迄の道程におきましては決して晴れの日は  
 かりではなかったと思います。雨の日も風の日  
 もありましたでしょう。喜びも悲しみも企業と  
 共に分ち合い長い年月に耐えて今日を迎えられ  
 ました皆様方の努力は企業にとりまして誠  
 に貴重なものとおさねばなりません。先程、小山  
 支部長も触れましたが、本部にも従業員表彰制  
 度がございます。それは20年、30年、40年、50  
 年となっておりますが、30年になりますと、こ  
 の他に東京都労働経済局長の表彰状も伝達する  
 事になっております。30年以上勤続されまして  
 60才を過ぎた方、又40年を勤続された方には都  
 知事の感謝状を伝達する制度もございます。皆  
 様もますます研鑽努力をされましてこうした今



後の表彰制度の荣誉を担われますよう、期待し  
てやまない次第です。  
私達業界を取りまく環境も更に厳しさを増し  
ており、需要の多様化、激しい技術革新等、こ  
れらに対して各企業はいろいろと苦勞を致して  
おります。企業に於ける皆様方がその中にあつ  
て責務の極めて大きいものがあろうかと思いま  
す。どうぞ一層健康に留意されまして後輩の育  
成指導等、企業の推進力となつて、ますますご  
活躍されますよう期待し、又お願いして、お慶  
びの言葉とさせて頂きます。」と祝いの言葉が  
贈られました。

次いで中央区工団連、宝田会長より「本日は  
東印工組京橋支部の永年勤続従業員表彰式に190  
名近い方が表彰をうけられ、心からお祝いを申  
し上げます。今日表彰を受けられた方は5年、  
10年、15年という事で、今となれば、早かつた  
なあと感想を持たれると思いますが、今日まで  
のことを考えますと、やはり相当、ご苦勞、ご  
修業されてきたことと思います。おめでどうご  
ざいます。

私共の団体としましても皆さんに大いにお慶  
びを申し上げる次第です。私がいいますに、同  
じ故郷から来た同期のものが同じサービス業で  
同じホワイトカラーでやっていて何か自分がひ  
け目を感じているような事がありまして、仕事  
の面でややいや気がさしたというような事を聞  
いた事がありますが、しかし皆様方はそれに耐  
えて修業され、今日を迎えられ、皆様方の手に  
よりまして白紙が立派な印刷情報メディアと  
して世の中に貢献されているという事で、現在  
の皆様方はああ良かったなと感ずる心境ではな  
いかと思つています。どうかひとつこの日を契  
機に頑張つて欲しいと思ひます。」と励ましの  
意をこめた挨拶があり、東製工組京橋支部、豊  
田支部長、中央区商工課茂木課長の来賓紹介が  
されたのち、受彰者を代表して、金山印刷(株)近  
藤日出雄氏が謝辞を述べた。児玉副支部長から  
「本日は従業員勤続表彰の皆様方には誠におめ  
でようございます。本来ならもっと豪華にお祝  
いをして差し上げたいのですが、何分にも緊縮  
財政の中、予算に限りがございますまして気持でカ



バーしている部分が沢山ありますことをお許し  
願ひます。本日来賓の皆様には、ご多忙の中、  
ご列席賜りお蔭をもちまして大変意義のある表  
彰式をとり行うことができました。有難うござ  
いました。又事業主の方には、大変業務幅輳の  
中、表彰者共々ご参加を頂きまして、有難うご  
ざいました。

昨今当印刷業界は昔の暗いイメージから逆転  
致しまして情報産業の一翼を担う花形業界とし  
て注目を集めておりますが、それだけにOA機  
器とのシェア一争いとか他産業からの進出等に

脅かされ、大変難かしい時代を迎えております。以前ですと勤続という事は昔からの伝統ある技術を一年一年積み重ねていくという事で意味を求めておりましたが、最近では年々新しい機器が発表され開発されて、いつまでも昔の技術だけに頼っていては生き残っていく事ができなくなってしまうました。

そのようなことから、どの時点で、どの道をとりに始めていくか、従業員としては事業主の方と共々難かしい判断をしていく事がこれからの皆様の務めではないかと思えます。どうぞ勤続という事で、ただ数を重ねるだけでなく何か一つ新しいものを見付けられて、ご自身のため、会社のため、そして社会のために20年勤続、30年勤続に向ってご活躍戴くことを願います」と閉会の辞にふさわしい挨拶があった。

つづいて第二部祝宴にうつり、佐藤副支部長の司会により、乾杯を前に小宮山副理事長は次のように挨拶。「皆様ごきげんよろしゆござい



ます。支部には沢山の顧問・相談役・参与の先輩がいらつしやいますけれども、只今司会から副理事長と紹介されましたが、本日は支部の一員として出て来ましたので、ご諒解下さい。今支部長以下執行部の皆様方、そして来賓の富田副理事長はじめ工団連宝田会長が従業員永年勤続に拘るところの貴重なお祝辞を戴きましたので、私は省略させて戴きまして実はこの京橋支部の表彰式について若干お話を申し上げてみたいと思えます。実は昭和32年、33年に熊谷印刷(株)の上田社長が支部長になりました時に副支部長を拝命しまして、今日は久保田さんという同僚がご出席ですが、その方々とお計りして本部の表彰とは別に、京橋支部として、是非行いたいという提案を致しましたが、今を去る30年前の昭和32年1月の新年臨時総会でそれをご承認戴いたわけで、考えてみると随分、長い歴史のある行事でございます。

京橋支部にも種々と行事はありますが、私は

その中で特にこの従業員の表彰というものに出があるわけでございます。その時は昭和33年の4月13日でしたが、今はその中央区役所も立派に建て替えがなっていますが、この中央区役所の裏に古い建物で京橋公会堂という古い建物がありました。そこでもって104事業所の249名の方々の表彰をさせてもらいました。私自身も大変感激を致しました。特に京橋の支部長と一緒に中央区の区長も連名で表彰してあげようとお申し出を戴いて、中央区長と京橋支部長を列記して、皆様方一人一人に上田支部長からお渡しをしたという事が今更のように思い浮んでくるわけです。大変に長い歴史を持ったこの表彰制度を皆様方も5年、10年、15年と大変古い歴史の重みがある先輩各位があつたという事を同時に想い浮べながら、又同時に今日の印刷業界の種々の変化をしている時代というものを考えると、昭和33年といえば戦後の廃墟の中からやっと立ち直つたという時でしたので、随分様変りをしている筈でございます。それだけに私も種々な感慨があるわけです。

皆様方は各々の企業の貴重な人材であり、宝であると思えます。その意味に於きましてまず、健康に気を付けられ、企業の発展にご尽力を頂きたいと思う次第です。また併せて所属の各企業のご繁栄、そして京橋支部のますますの発展を祈念しまして、乾杯を致したいと思えます。とのべられ賑々しい乾杯につづいて懇親の宴が始まり、時の過ぎるのも忘れて、なごやかなうちに無事終了しました。

## 京青会五月研修会

## 中央区地域整備の推進について その2

中央区建築部地域整備課 吉田課長に聞く

そこで具体化している民間開発の第一として大川端開発ですが、ご承知のとおり、江戸期以来の交通路で、この隅田川は往来する船の要路で廻船のための倉庫などが時代の移り変わりとともに用途が転換してゆく中で、民間活力を利用して開発を進めてゆくのが大川端開発構想です。その典型的な例が石川島播摩重工業跡のリバーシティー21というもので、これは二、五〇〇戸の住宅建設計画で、計画人口としては七、〇〇〇人位の入居を予定しています。

これは昭和54年頃に住宅整備公団と三井不動産とがまだ地価の安い頃に用地の手当しており、住宅中心の開発となっています。計画の具体的内容は別紙の資料の通りです。また三井、三菱、住友を始めニチレ、乾倉庫等の倉庫跡地再開発計画であります。概略説明しますと、まず最初に住友ツインビルですが、現在工事中で、12万平方メートルのオフィスビルを建設する予定で、これが計画されたのは59年ですから当然オフィス化の動きが中心になっています。その住友ビルでは単に、大オフィスビルを造らせただけでなく、この住友ビルから公共用に五〇〇

坪程、用地を提供させており、305号線という新川橋のできる道路の拡幅に伴い移転しなければいけない人の代替地とか、住宅用地として使う予定の用地を提供させてこのオフィスビルが認可されました。併せて現在隅田川を囲っている3.5米の“カミノリ堤防”といって道路からは川の流れが全然見えないのを、これに盛土してゆるい傾斜をつけて昔の川堤を再現しようというのが“スーパー堤防”なのです。“リバーシティー21”も同様、スーパー堤防になる予定です。新川から箱崎地区まで、この上に遊歩道ができます。次に三井倉庫箱崎開発計画というのは12万平方メートルのオフィスビル建設計画ですが、実はここでも二〇〇戸ばかりの住宅を三井倉庫に造らせています。先方では住宅を作るのは嫌がっていたのですが、私共も強引に事務所だけなら認可しませんと主張したのです。そして先程の緩傾斜のスーパー堤防への協力も要請しています。

次に新川の三菱倉庫、これは住友ビルの隣りにありますが、ここは昭和48年から比較的早い時期に新川ダイヤビルとして、オフィスビルが

建設されていましたが、最終的に建設ビル開発計画が纏まったので、一〇〇戸の定住型住宅を造らせて、更にスーパー堤防に協力することで決まりました。

次に勝どき橋側の月島側にある乾マンションですが、これは中央区集中開発をお願いしています。このような形で乾倉庫の跡地を住宅公団の“ニツチク”を使いまして四六〇戸程の住宅を造っています。これは今年の5月28日から販売を開始しますが、公団の金を使った割には家賃が高く、六〇平方メートルで16万円ですが、築地の魚河岸に勤める人には人気があるといわれています。

次は日本冷蔵の明石町ビル開発計画ですが、これは佃大橋側の築地側にありますが工場をとり壊してここにオフィスビルを建てようというわけです。ここにも認可する代りに住宅を28戸程造らせました。ここで注目して頂きたいのは、この佃大橋のたもとと道路が高架になっており、その脇に小公園がありますが殆ど使われてないので、この場所も大川のそばに沿って陽当りのよい所へ移させてもらうという計画です。こういう形で我々も期待して仕事を進めているわけです。これらは大企業デベロッパーが相手なので割に交渉しやすいのですが、現実には個別の底地買いが出てくる時はこういった形ではできないと思います。先程話しましたが、昭和59年頃には、土地は坪五〇〇万〜六〇〇万円位でしたが、今では3千万とか法外な値段になってきました。

このような急激な地価上昇には何んら対策がとれず、昭和61年12月から施行されています都条例で土地取引の適正化を図るため、五〇〇平方メートル以上の取引は届出制にして、価格の適正化を事前審査して初めて契約ができるという制度になりました。

実際には裸地五〇〇平方メートルの土地などないのでありますが、小さな土地を掻き集めて五〇〇平方メートル以上の開発をしようとする大手デベロッパーへの対策であります。印刷業界の中でも今の土地を売却して江東区等で工場用地を買入れて移転していく。これは実際携わる者として大変いやな事として、売った人が来るので、価格が適正でないと、売る区民の収入を減らす作業をやらねばならないので、大変いやな事です。

土地取引について価格の規制は61年12月から行っていますが、中央区は60年6月から独自に五〇〇平方メートル以上の土地開発事業については予め届出で中央区と合意を取り交してから建設、転売というような事を定めた条項です。これは底地が秘密裡に事務所地へ変っていくのを予防するためです。必ず住宅部分もあわせて造らないといけないということで指導を行う条項です。開発事業届出件数の資料をみますと、建て替え等の自主開発とか、その他の開発とわけてありますが、その他の開発というのが底地買いなのです。その他の開発は五〇〇平方メートル以上で60年6月から62年3月までで、日本橋地区を14件、京橋地区34件とあり月島地区は3件でまだ少し、月島地区で少いのは今、都市計画で容積率とい

うのを定めており月島地区では一定の土地に対して300%という規制が定められている。これが日本橋、京橋地区では500%、土地に対してその5倍までの高さに建ててよいというのがあるからです。

日本橋、京橋地区はそれで多くの底地買いが出ている。月島地区は容積率が300%のため底地買いが押えられている。これにより容積率が上がるのではないかと期待から月島でもぼちぼち、底地買いの動きが目立ってきています。

私共は単純に道路を造ったり、或は皆さんの所で共同化して事業をするというだけで実際には済むものかなあと考えますと、必ずしもそうではない、実際はやはり印刷業の皆さんについて言えば、印刷業を中央区の商工業とそれについていうように参画させていこうかという事を考えねばならないと遅ればせながら気付き検討すべき課題としております。

単純な例を挙げれば築地場外市場ですが、これは先にのべました公社として仕事をしてますのでよく判りますが、築地市場内店には中央区の人々の3万5千人はいないと思うのです。月島、勝どきに住んでいる方の多くの部分が、築地の関連で住んでいるのです。同様に京橋等に住んでいる人々の大部分は印刷業の関連で住んでいると思うのです。ところがその印刷業が現状どうなっているかについては実際にはよく理解していません。そこで今年に入船、湊、新富地区と地域は限ってありますが印刷業の存在について区は調査、勉強をさせて頂きたい。今迄商工

業振興といつても、手伝い仕事であるとか、融資制度とかでしたが実際はそういうものではない。印刷業に関しては、実は深刻化の話をも、三聞くわけですが底地買いの対策の要綱とか、土地取引の話ですと例えば写植業者が抜けたとか、プロセス屋、製版業者がなくなつたとか、印刷関連の業種が抜けてゆくと事業がやりにくい等、詳しくは知りませんが、教えて頂きたいのですが、製本業者まで含めて印刷業の流れの輪が、土地買いの問題の中で、ぼちぼちこと抜けていくとそれに連なる業種の人が、自分達がここにいたくてもいざという状況がどうも出始めているような声が一昨年あたりから区の方に可成り寄せられているのです。このような観点から私共は実情を調査を含めて研究させて頂きたいと考えています。

印刷業施設と都市計画規制について、印刷業界が街造りについて陳情を受けているというのはこの事を指しています。都市計画図で見ますと中央区は殆ど全部ピンク色、つまり、商業地域になつています。

この商業地域というのは印刷業にとつて可成り不変な用途地域のことなのです。作業面積が一五〇平方メートル以上の作業場は商業地域には造れない。それから月島の4丁目と3丁目の一部に第2種用途地域がありますが、これも可成り不変な用途規制があります。普通の事務工業地域ですから作業面積が規制されない筈ですが、この第2種はある程度住居的な色彩の濃い工業地域という規制をかけてますので一五〇平方

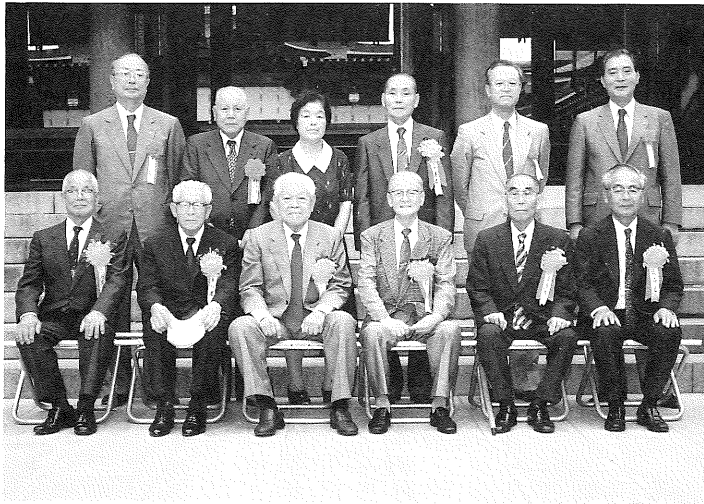
以上の印刷工場は規制されます。そんな事で工業振興とかいいながら実は不自由な規制ばかりなのです。これを何とかせよという話が以前から工団連等を通じてあるのですが、一方印刷工業組合の方からも陳情をうけています。これは可成り綱引きの関係でして、力関係といえますか、全体の大多数の方と少数の不利益をこうむる人との見方の力関係によるところがありますので、全体のコンセンサスとしては良くても印刷工業の方にとっては非常に不自由な部分があるかと思えます。

仕事の内容を最新化する。そのために作業場を拡げたいと思っても、規制されていけば出来ないという事が多々あるのではないかと思います。この点については私共、今後印刷業は近代化について協業化とか、ネットワーク作りが必ず、組み合わせられていくものとして、その時作業場の面積が一五〇平方メートルを超える話が出てくれば、これは或る程度協業化については土地や建物について、一定の公共性を加味していこうと考えています。

一五〇平方メートルを超えても工場が商業地域に出来るとか、第2種地域にも建設できるようにしようとか、今でも許可制度の建築規準法48条での用途規制をやっておりますが、それを単純に持ち込むのではなく事業の拡大と共に建物を建て替えるという場合、一定の公共性を加味すれば許可していこうという道もあるので、印刷工業の振興も町造りというものをある程度加味していけば、この制限もクリアーできるのではな

いかと今後の町造りの中で検討してみたいと考えています。よろしくお願いします。(拍手)

### 本部主催敬老の集い



9月11日(金)、本部主催「敬老の集い」が明治神宮・参集殿にて10時から開催され、京橋支部からは(株)昇寿堂・瀬戸昇之助氏ほか8名の方々が出席されて、新村理事長からお祝いの言葉を

受けられた後、会食、懇談に楽しい一刻を過ごし、厚生委員会の肝入りで民謡の一幕もありました。

なお京橋支部の77才以上の長寿者は39名で、22支部の中で一番多く、全体では278名になりました。

### 顧問・相談役・参与の会





9月18日(金)、顧問・相談役・参与の会が印刷会館2階会議室にて、小山支部長の司会で開かれました。当日は、まず最近の都心の地上げ攻勢による問題等を、中央区整備課の吉田課長を招いて簡単に状況を説明、新富・入船・湊地区の地域整備調査について協力を要請しました。そして今後、こういった問題が起こった時は、支部に相談して下されば、支部長を通じて区の土地整備課へ交渉するということを示し合せました。印刷業者を区内に定着させるための方策を今後とも模索していくことを要請しました。

次に本部新村理事長よりお願いのあった件で、「井上計君の10周年を祝う会」の祝賀会への協力について、小山支部長や小宮山副理事長のお願いがなされて顧問・相談役には各2枚、参与・部長・地区長や一般の協力をお願いできる有志の方々へ各1枚ずつ買って頂くことで了解をして頂きまして、京橋支部の目標枚数である80枚を消化致しました。ご協力有難うございました。

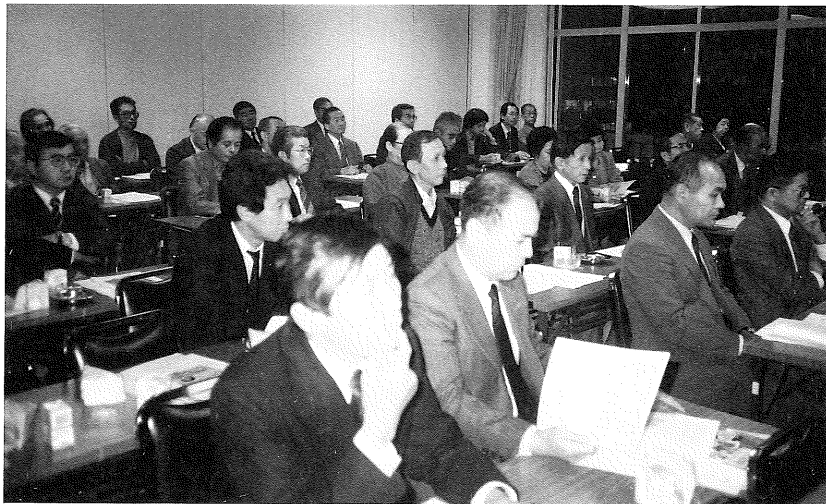
### 中央区「文化の日」表彰式

11月3日(火)、中央会館にて、10時から文化の日を記念して、中央区各種表彰式が行われましたが、京橋支部の(株)昇寿堂・瀬戸昇之助氏が、62年度の中央区中小企業発達功労者として、代表して表彰状を矢田区長から受けられました。おめでとうございます。

### 「税務研修会」開催

印刷・製本両京橋支部共催

11月6日(金)、都勤労福祉会館にて、5時半過ぎから京橋税務署から担当官を招いて、2時間に亘って研修が行われました。



### 京青会だより

まず司会の大竹副支部長により、開会の言葉が東製工組京橋支部豊田支部長により行われた。続いて京橋法人会緒方専務理事の挨拶、京橋税務署伊藤副署長の挨拶の後、研修に移って、「土地異動と事業承継に伴う税務」と題して、法人第九部門・二ツ森統括官、資産税部門・本間統括官、法人第一部門・奥村調査官の順に、土地移動や相続税の問題について、2時間に亘り解説を受けて、皆さん身近かな問題だけに真剣な面持ちで聞き入っていました。なお印刷・製本合わせて約70名の方々が出席しました。





◎ 7月26日(日)、月島グラウンドにて早朝から、中央区商工団体対抗のソフトボール大会が、中央区主催にて行われました。京青会チームは昨年同様2チームが出場しましたが、会員構成のAチームは今年は若手会員を入れて馬力アップをしたのが効を奏して一回戦は楽勝しましたが、二回戦では惜しくも逆転敗けしました。

なお優勝チームは月島西仲商店会Cチームで、やはり日頃の練習成果がそのまま出たようです。なお京青会Bチーム(外部企業チーム)は昨年は優勝しましたが、今年は3位に終わりました。

◎ 京青会10月行事として有名講師講演会が支部共催で、10月21日(水)、築地スエヒロにて、国文学者の金田一春彦先生をお招きして、鎮目幹事の司会にて行われました。演題は「日本語のす

ばらしさ」で、日本語には外国語にはないニュアンス、響きがあり、外国語には表わせない情感があるとして、判りやすい表現で約一時間に亘り話した。質問では次々と5、6人もあり30

## 新富・入船・湊地区で合同勉強会

中央区建築部において、新富・入船・湊地区を対象にして「地区整備基本調査検討委員会」を発足させて街づくりについての調査・検討を始めておりますが、その資料にするためのアンケート調査(三地区の印刷関連業者約六〇〇社を対象)が実施されたのを受けて、開発計画の現状や今後の動向などを勉強するのを中心として中央区建築部地域整備課の吉田課長以下を囲んでの懇談会が、新富・入船・湊の三地区合同で10月8日18時より中央会館に約40名の組合員の出席を得て開催されました。

定刻を少し過ぎての18時10分に生野入船地区長の司会で吉田課長を紹介、吉田課長より課員の紹介があった後、出席者に配布された資料に基づいての細かい説明(約一時間)が吉田課長からあり、途中に多忙な中を繰り合せて出席していただいた小山支部長の挨拶と軽食をはさみながらの懇談となりました。

説明の内容を要約しますと、『中央区の基本計画の柱を「定住人口の維持・回復」人口十万人

分以上になり、先生も最初の緊張は消えて、ご満悦の様子で帰られました。なおこの日は一般組合員も含めて50名程が参加、日本橋青年会員も来られて熱心に質問していました。

10月8日 於 中央会館



目標」に置き、それに沿った地域産業の振興・活性化及び生活環境の改善を目指した地区整備を推進したいと考えております。ついでには、区内でも比較的人口減少が少なく、住工併用の印刷関連の業種の立地が多く見られるこの三地区を対象とし、地域産業の近代化と地域街づくりをうまくかみ合せた街づくりを検討するということになり、昭和62年5月～63年3月までを調査期間として「街づくり協議会」地区整備基本

### 株の大暴落に思う

日刊食料新聞十月二十八日付コラムより転載

▼メッキはいつか剥げる。最近の株の暴落もこの口である。いつか必ずくるゾの不安が、たまたまいまの時期に押し寄せてきただけのことである▼予想を超えた百四十円台の円高の中で、思ったほどの倒産もなく生きてこられたワケは何？一□でいえば、それは「マネーゲーム」のお蔭といえる。このことは「本業は芳しくなかったが、財テクで帳尻合わせした」去る三ヶ月の企業決算がはつきり証明している。つまり「株」と「地上げ」が百四十円台を支えた二本柱であったというわけ▼ところが、この二本柱にも暗いカゲの時期がきた。株はすでに二カ月前ほど前に天井に達し、地上げも国民的怨嗟の中で鎮静化が急がれることになった。頼みの二本柱が音をたてて倒れ出したというのである。まさに「メッキの剥げ」である▼こんなに金利が低いんでは預金も面白くない、

調査検討委員会」を組織して、地元の皆さんと意見交換をしながら調査・検討を進めていきたいと考えており、その一環としてアンケート調査をお願いした次第です。特に「印刷関連企業の将来のあり方」をテーマとして、新富・入船・湊地区内のある場所をモデル地区として取り上げ、印刷業の近代化と街づくりをかみ合わせた街づくりの方向を検討し、整備計画推進の指針にしたいと考えていますので、宜しくお願

むしる株のほうが一と、これが一般庶民を株に走らせた原因である。個人投資家実に二千万人、総人口の一七%がこれに殺到した。ということは、今回の株の暴落が与えたダメージの底辺は、極めて広範にわたっていることを意味する。汗と脂の虎の子を一夜にして水泡にした者だっている筈である。まさしく「ミイラとりがミイラ」にである▼国民の一七%もが手痛い被害ということは、その後の経済不安をも予告したものと見える。真っ先にピンとくるのは「内需拡大」である。経済安定の十字架に供された「内需拡大」も、このような手痛いケガのあとにあつては多く望めそうはないということだ。むしろ空財布に打ちのめされた購売力低下がご正解なのかも▼ともあれ、あと一カ月で今年も終わりである。昔ほどの年末特需はなくなったとしても、この時期が依然として「書き入れどき」であることは変わりがない。この大事な折に肝心のお客さんが揃いも揃って空財布とは。「寒さが特に身に沁む年末」なんてことにならなきやいがいが。

(妙竹輪)

いします。調査へのご協力に感謝します』でした。

休憩を挟んで後の懇談会では、種々の質問がでしたが、63年度に予定されている容積率の変更については、この三地区は変更を考えていない。しかし、住宅付置の建物や共同ビルの建築等については、ケースバイケースで対処する方針なので相談して下さい。

モデル例は、大・中・小規模のものを選定して早急に実施したいと考えているので、そのような計画等をお考えの方に申し出ていただければ、図面作成等の手助けを積極的に推進したいと思っておりますので宜しく願いたいとし、その他では、道路交通網の問題、駐車場の問題、学校の問題等についての質疑応答があり、8時40分に閉会しました。

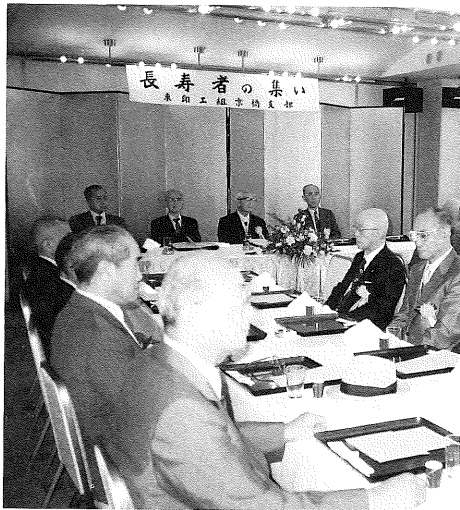
蛇足で付記しますと、アンケートの回収率は約97%に達し、その結果の集計整理作業に入っており、その速報が、10月30日の第3回協議会で報告されております。いずれ詳しい結果が出た時点で何らかの報告なり、勉強会なりが実施出来るものと思われまます。

(生野記)

### 告知板

「配送駐車中」の表示板を一枚300円で頒布しています。申込みは支部事務局へどうぞ。

長寿者の集い (6月) アルバム



前号に記事が掲載されましたが紙面の都合で紹介できませんでしたが写真を遅くなりましたが9月の敬老の日によせてのせます。

地区だより

築地互友会懇親旅行会

老神からぐるっと  
日光—東京

互友会恒例の秋の旅行は老神温泉からぐるりと日光を回り東京へ。最近の温泉ブームに便乗した訳ではなく、会員諸氏にとって年一回の唯一の楽しみだからである。

九月十二日土曜日朝八時半定例発着所である熊谷印刷前を出発。首都高速高島平から関越高速を抜け一路老神へと向う。常連の布施さんが社員旅行とぶつかり欠席。総勢は二十一人。天気は良好にして旅行日和となり幹事にとってはまず幸運であった。土曜日のため都内を脱するまでに渋滞が続く。夏の暑さの続く中であつたが、クーラーが程良くきいて車内は快適だった。出発してより三時間で前橋の中心街へと進む。

この辺は毎年一月七日のダルマ市には十万人の人出でにぎやかなる所だとガイドの説明。車は赤城有料道路の白樺ラインを大沼湖に向う。山が高くなるにつれてガスが多くなる。やがて大沼湖畔の駐車場へ辿り着く。折角の大沼湖もガスで対岸が見えない。それでもこの場所が最高だとガスをバックに記念写真。晴れていればさぞかし眺めがよかつただろうと想象しながら昼食の場所青木館へ向う。三、四日前の台風の影響で道路はえぐられた跡があつた。山菜料理中心の昼食をとりひとまず小休止。そのあとは時間どおりバスが発車、目指すは吹割の滝へ。

吹割の滝へ長い下り段階を気をつけながら河原へ向う。人出は比較的多い方だ。ガイドによると「歌人若山牧水も訪れた奇勝で、その著『みなかみ紀行』にもでている。この滝は一〇メートルにも及ぶ川床のいたるところに奇岩があり天然記念物にされている。特に新緑と紅葉のシーズンには見事な美しさとなる」という。もう一つの下り口まで行きつづら折りの坂を登り、途中にあった茶店で「またたび」を買う。焼酒一升に半年寝かせると精力剤になるといふ言葉に乗せられて今採ってきたばかりのまたたびはピン詰めの物とは形が違っていた。ウソか



マコト来春に一つの楽しみができたことはたしかだ。バスは老神温泉で、すぐ近くだ。春は山桜、山吹、つつじが咲きみだれ、夏は片品渓谷の涼風の中、岩魚、山女の釣り、燃えんばかりの紅葉の秋は最高の季節だと案内にでていたが一寸早過ぎたようだ。

やがて今夜の宿「老神観光ホテル」に着く。かなりのスペースを増築しているところを見ると客は増えているのだろう。しかしホテルには女中さんは見当らず。熱海や伊東のように行かず。ひとまず大野天風呂へ。湯かげん良し、眺めは良し。宴会の前に地区長より地区長会からの報告事項、これからの問題など話す。記念写真のあと早速宴会。幹事諸兄は一所懸命サービスに力を入れる。芸者は四人。こんな山奥にも一〇〇人からいるんだそうでビックリ。しきりに二次会のアプローチが激しくなる。台風でキャンセルがでてその穴埋めという訳。適当に逃げながらカラオケ大会となる。気分が良かったのか、うまかったのか酒の量がいつもより多い、ダンスも飛び出して最高のムードとなる。取材のため「美人座」へ。翌朝はその情報を耳にしながら朝市へ。ホテルのすぐ下で開いているのかかなり混んでいた。東京では買えない熊笹の葉や柿の葉やイナゴの佃煮などで当地ならではの朝市だった。朝食のあと日光に向う。福島、栃木の県境に位置する片品村の面積は国内では村と名がつく中では二番の広さだという。片品村を過ぎると間もなく三冠馬ミスター

シービーの産地千明(ちぎら)牧場の近くを通り、一路とうもろこし街道を日光へと向う。景観のすばらしい金精峠を抜け一路バスはひた走る。このバスの石川運転手は安全運転ではピカ一だ。やがて戦場ヶ原に着く。お天気も良く記念写真をとる。人出も多い。好天気に恵まれての旅は幹事諸兄に感謝せねばなるまい。華嚴の滝近くの並木食堂で昼食のあと全員で岩が落ちて昔の面影がないという姿を見学に行く。滝口の岩が削り取られて、滝が壺へ真直ぐに落ちず途中に当たってしまっている訳だ。やはり華嚴の滝はひと筋で滝壺へ落ちる姿が美しかったと思う。皆一様にそう思っているようだった。思い思いに写真を撮り帰路に着く。

いろは坂のスリルを味わいながら東北自動車道の宇都宮インターへ向う。天気も良く、安全運転と可愛いバスガイドに恵まれた快適なバス旅行は予定の時間どおりに東京へ着いた。(近藤記)

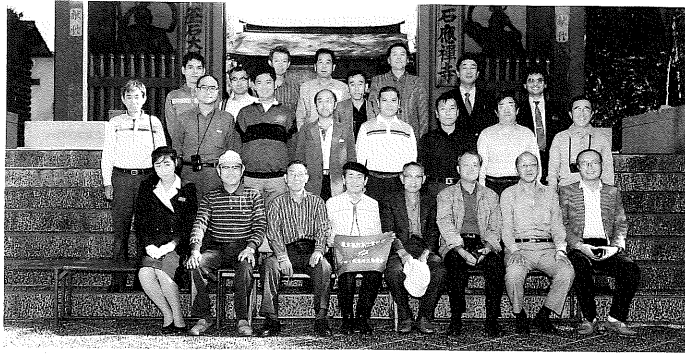
「組合員増強運動にご協力を」

62年12月現在、京橋支部の組合員数は256社と大きく減少しました。地域の地上げ等がかなり影響して減少の一途をたどっています。

この時期に当り、支部員各位の事業所に関係あるアウトサイダーの印刷業者へ組合加入の呼び掛けを是非お願い申し上げます。

湊地区懇親旅行記

台風19号の影響で、今回の旅行出発日10月16日は雨になってしまった。  
 今年は東北の陸中に足を延ばそうと計画をたて、10月16日(金)の夜行で出発することにした。上野発23時12分の「ゆうづる5号」に参加者23名が乗車し東京をあとにする。出発時間が遅いこともあり、発車後短時間の談笑をして眠りにつく。翌17日午前7時盛岡駅へ到着、幸い風もなく雨も小降り、まあまあの旅行日和となる。



陸中海岸国立公園 松島

東印工組京橋支部 S 62.10.18

市内の「わんこそば」で有名な「初駒」で朝食、南部鉄器製造の「岩鑄」で鉄瓶の製造工程を見学する。ここは以前、十和田旅行の時にも立寄ったことがあるが、説明コンパニオンの案内や、工場内部は改装されて地場産業としてはうまくいっているように感じられた。予定のコースをバスに揺られ、寝不足とアルコールのせいか窓外の景色を見るでもなく仮眠する者が多く、バスの中は静かである。早坂高原の散策も雨のため取りやめ、日本三大鍾乳洞の一つである龍泉洞に到着する。規模は秋芳洞より小さいが、違った趣があり自然の美に感嘆する。昼食後、

真崎港から浄土ヶ浜港まで観光船の予定だったが、台風の影響で欠航のため港内の遊覧船による見物だけにする。浄土ヶ浜は三百年前、靈鏡和尚という高僧が「さながら極楽浄土の如し」と感嘆して名付けたという陸中屈指の景勝地である。海猫の餌付けに成功したことでよく知られているが、遊覧船の周囲を何百羽という海猫が飛んでいてパンをちぎって投げると空中でパクッと受け止める様子は見事である。この海猫はパン食に慣れ、魚を獲るのを忘れてしまわないのか心配になる。港内見物後、宮古海岸の宿泊場所「ホテル近江屋」に向かう。

夕食まで二時間近くあるため、ゆつくりと温泉につかり、旅の疲れを癒やす。宴会に入るとホテルの社長が挨拶に現れ、挨拶の中で夕食に出た料理を一つ残らず全部食べた方には記念品を差し上げますという。それ程豪華版の料理に舌鼓を打ち9時近くまで楽しく談笑しお開きと

する。

10月18日(日)は台風一過快晴になり、ホテルをあとに釜石大観音に向かう。釜石大観音は昭和45年4月8日に落慶されたもので、建立の趣旨は市内大只越町にある曹洞宗「石心禅寺」が約6ヘクタールを釜石市より譲り受け、観音さまの慈愛により両界の苦惱する人々を救い、幸せと世界平和を念願し、度重なる三陸の津波に消えた人々、数多くの天災、人災犠牲者などの慰霊のために建立したもので、像高は48・5米あり、鉄筋コンクリート造りです。内部は12Fまであり、各階ごとに拝殿、諸観音像が祀られており、12Fが展望台になっており、海拔120米の高さで遠く馬田岬、尾崎半島など陸中海岸のリアス式海岸が眺望できます。釜石観音参拝後、柳田国男の「遠野物語」で有名な民話のふるさと遠野市へバスを進める。市立博物館では遠野の風土・文化・歴史を一目で知ることができ、昔話を録音する「語り部の里」コーナーが面白かった。また日本十大民家の一つに数えられている「南部曲り家」は千葉家の所有で現在でも住居として使用しており、約200年前に建築された豪荘な民家で、重要民俗資料となっている。住家の部分は306・96平米、畜舎の部分が162・86平米、土間と合せて466・67平米(約147坪)ほどあり、かつて、作男15人、馬切頭を有していたという。見学後、昼食をとり、国道107号線を走り、北上駅に到着する。17時36分発の東北新幹線「やまびこ72号」にて20時34分上野着家路についた。(中山記)

# 支部の動き

7月2日 本部支部長会、於・日本印刷会館  
 小山支部長出席

7月3日 東商小規模企業振興委員会、於・東  
 商中央支部、小山支部長出席

7月9日 部長・監査・地区長会、於・支部室  
 1、支部長会報告事項

- ・オフセット技能検定について
- 2、本部事業推進について協議事項
- ・有機溶剤2種・3種表示パネル、作業  
 主任者の任務パネルの作成

・商業印刷研修会開催について、8/26  
 「印刷料金の適正見積りについて」

- ・新加入組合員懇談会について、6/18  
 京橋会館、対象70社、新加入25名他
- ・第11回頁物印刷連絡協議会について
- 6/19、神戸有馬グランドホテル

- ・組合ガイド作成について
- ・88年版組合員名簿作成アンケート
- 3、支部提案事項
- ・公害労務情報について。その他
- 4、当面する支部事業について

- ・永年勤続従業員表彰式について
- 9/22(火)、会費事業金5千円

・税務研修会、11月上旬、都福祉会館  
 7月17日 全印健保組合会、於・新川健保会館  
 小山支部長出席

7月26日 中央区商工団体対抗ソフトボール大

会、於・月島グランド、京青会出場

7月31日 中央区地域整備委員会、於・中央区  
 役所、小山支部長出席

8月8日 地域整備協議委員会、於・中央会館  
 小山支部長出席

8月25日 地域整備協議委員会、於・中央会館  
 小山支部長出席

9月3日 本部支部長会、於・日本印刷会館  
 小山支部長出席

9月7日 地域整備委員会、於・中央会館  
 小山支部長出席

9月8日 需要開発委員会、於・印刷会館  
 小山支部長出席

9月10日 部長・監査・地区長会、於・支部室  
 1、支部長会報告事項

- ・有機溶剤作業主任者講習会の結果
- 8/6、8/7、71名受講68名合格
- ・オフセット技能検定結果について
- ・第2種特別工業地域等の問題について
- ・「敬老の集い」開催について

・敬老の集い」開催について  
 該当者27名、出席予定者11名、9/11  
 '87印刷文化展について、(1)日印産連表  
 彰について、東京都関係5名表彰  
 京橋支部・印刷功労賞 永井直保殿

- 2、本部事業推進について協議事項
- ・組合員加入増強運動の実施について
- ・年賀状等の問題について

・印刷文化展参加状況について  
 ・新年会の開催について、1/13

・労働福祉事業統一調査について

・第36回永年勤続従業員表彰式について

11/7(土)、新橋演舞場、表彰式、観劇  
 ・生命共済・経退功制度第一次キャン  
 ペーン実施について

・井上計議員在職10年を祝う会」開催  
 準備会、9/10、京橋会館、役員他

3、当面する支部行事  
 ・永年勤続従業員表彰式について

- 9/25(金)、中央会館7階、記念品図書  
 券決定
- ・京橋支部印刷人青年会助成金15万円
- ・京青会10月行事有名講師講演会共催
- ・税務研修会、11/6(金)、製本京橋支部  
 と共催

9月11日 本部敬老の集い、於・明治神宮参集  
 殿、京橋支部より小山支部長他7名出席

9月14日 印刷文化典、記念式典及懇親会、  
 於・帝国ホテル、小山支部長他出席

9月14日 印刷展、於・新宿NSビル、小山支  
 部長出席

9月14日 印刷文化展調査研究事業成果発表会  
 於・帝国ホテル、小山支部長他出席

9月15日 印刷文化展、国際シンポジウム、  
 於・東京会館、小山支部長他出席

9月18日 顧問・相談役・参与の会、於・印刷  
 会館二階、小山支部長他役員出席

9月21日 中央区工団連常任理事会、於・箱崎  
 エアーシテイターミナル小山支部長他出席

9月25日 永年勤続従業員表彰式、於・中央会  
 館、小山支部長以下役員他110名出席

10月1日 本部支部長会、於・日本印刷会館

小山支部長出席

10月6日 需要開発委員会、於・印刷会館

小山支部長出席

10月8日 新川地区例会、於・ダイヤビル

小山支部長出席挨拶

10月8日 新富・入船・湊地区地域整備説明会

於・中央会館、小山支部長他出席協議

10月15日 部長・監査・地区長会、於・支部室

1、支部長会報告事項

・工特陳情と特別許可申請について

・「書籍印刷物」ビデオ作成協力会社への感謝状贈呈について、5社

・労働統一調査回収状況について

2、本部事業推進について協議事項

・組合員加入増強運動の実施、新加入に

対する支部還元について、

・第2次総合賃金調査の実施について

3、当面する支部事業について

・「井上計君議員10周年を祝う会」京橋

支部80枚目標

・税務研修会、11/6(金)、都勤労福祉会館

・京青会行事「金田一春彦先生講演会」

会費一般150円、日本語の素晴らしさ、

・顧問・相談役・参与の会、幹事会の開

催について、11/26(木)に予定

10月21日 京青会講演会「金田一春彦先生」、

於・築地スエヒロ、大竹副支部長他出席

10月22日 「井上計君議員10周年記念祝賀会」

於・赤坂全日空ホテル大竹副支部長他出席

10月30日 新富・入船・湊地区地域整備協議会

於・中央区役所8階、生野地区長出席

「新たな時代を生き抜く業界計画」

調査票提出のお願い

先般各組合員へ配布されましたこの調査票は

62年度の実施状況報告及び63年度の計画の調査

を行い国(通産省)へ提出するための計画書

を作成します。63年度からは販促製品の開発及び

共同利用、ソフト強化通信教育、見積りソフト

の研究開発、経営情報の提供利用、電子編集・

印刷システムの研究普及、等の5項目の事業が

推進されます。ぜひ参加してメリットを追求し

てください。

### 支部員の異動

加入組合員(62年11月)

・近畿印刷(株)東京工場、嶋田勝治殿、勝どき

4-8-13、電話536-1716(準組合員)

脱退組合員(62年8月~11月)

・三恵工芸印刷(株)(新川地区)土屋四郎殿

### 所在地移転

・(株)ミズタニは江東区深川2-29-5に移転

しました。電話643-6910です。

### お悔み申し上げます。

▼月島地区、室田印刷(株)社長令夫人、

室田セウ子殿が御逝去されました。(8月)

▼新富地区、(株)シール竹山社長御母堂、

竹山みつ殿が御逝去されました。(9月)

▼八丁堀地区、鎌田印刷(株)社長令夫人、

鎌田千代子殿が御逝去されました。(10月)

## 編集後記

▼地上げ問題はいよいよ国会でも論議される

ことになり、支部員にとっても興味は深い。そ

の点では京青会が五月研修を実施した際の「中

央区地域整備計画の推進について」を連載した

が非常に参考になると思う。地区長会でも吉田

課長から中央区の将来構想を聞いたが、人口減

から人口増への転換を図る中央区の将来構想は

吉田課長の情熱が一つの説得力になっていたこ

とは確かだ。この説得力が中央区変身の起爆剤

になることを祈ろう。

▼新富 入船 湊地区の合同勉強会も参考に

なる。しかし一方で中央区の各町内で地上げ

屋による更地(さら地)化が虫喰いのように目

立つのが気になる。歴史と伝統を持つ印刷発祥

の地京橋支部がいつまで「歴史と伝統」と言っ

ていられるかを思うと背筋が寒くなるのは編集

子一人ではあるまい。

▼巻頭言を副支部長持ち回りにしてからか、

支部報の評価を高めているようだ。六十九号は

東印工組の永年勤続従業員表彰式の様子を探り

上げている。表彰された従業員の苦勞と努力に

思いを致し二十一世紀へ向けてどうあるべきか

を問うていることは短い文章ながらハートを感

ずる。これからのトップはリーダーシップを徳

に求めなければ従業員はソッポを向く時が来て

いるという話を思い出した。 近藤記